

5/20 エントリーのための説明会 質疑応答

【熊本県の課題に対する質問】

1) 熊本県全体の問題ではありますが、八代や人吉など、一つの地域に絞った政策を考えてもよいのでしょうか。

(回答) 一つの地域に絞ってもらって構いません。理由はなんでも構いません。地域によって課題や強み、弱みは様々なため、必要な政策も変わってきます。一つに絞ったほうが、より必要で実現性の高い政策アイデア出せるのではないのでしょうか。

1)に関連して。一つの自治体の中のあるエリア、去年は八代市の坂本地区に限定したグループがありましたが、それでも構わないのでしょうか。

(回答) 構いません。

2) 被災地であるという特異性を、アイデアに盛り込む必要がありますか。

(回答) その必要はありません。被災前から課題がある地域もあるので、地域が持続する取組みであれば、必ずしも盛り込む必要はありません。

【熊本市の課題に対する質問】

1) 私達のゼミでは、大学周辺(黒髪地区)の方々と防災計画を作っています。大学が多くある熊本市だからこそ、防災活動を通じた地域課題解決ができるのではないかと思うため、そのような研究は今回のテーマの対象になりますでしょうか。

(回答) なります。防災の分野で今後の熊本市を実現したいかを考えて頂き、熊本市の現状と照らし合わせ、そのギャップを埋めるための課題が地域課題になると思います。その課題を解決する手法に防災等、いろいろなアイデアが考えられるのではないかと思います。

2) 政令都市移行10周年ということで、政策に政令指定都市の特色を生かす必要がありますか。

(回答) そういった観点もいいと思いますが、今回は今後の熊本市としてありたい姿を考えて頂きたいので、こちらから特段指定するものではありません。

【昨年参加した先輩たちへの質問】

1) 参加したきっかけはなんですか？

- ・球磨村と研修室にもともと接点があった。令和2年の7月豪雨で被災され、自分たちの活動を通してなにかできることはないかと思いコンテストに参加した。
- ・3年次の講義、「地理学」で熊本の地域について勉強し、地域活性化に興味をもった。
- ・学部の先輩の実家が球磨村だった。被災された先輩に当日の様子を聞き、もっと詳しく知りたと思った。
- ・自分自身のふるさとでも少子高齢化に苦しんでおり、地域衰退に対する危機意識がもともとあり、他人事に思えなかった。このコンテストに参加することで球磨村に限らず同じ課題に直面している全国の地域などでも共通して行えるような政策を提案していきたいと考えたため。
- ・ゼミで普段、学んでいる政策立案について実践的に取り組んで、それを実際に職員の方に直接伝えることができる減多にない機会だと思った。

2) コンテストに参加してよかったことは何ですか？

- ・インタビューや現地調査を経験し、情報の収集の仕方など卒業論文のための練習になった。
- ・人前で政策などを説明する力がついた。また政策の強みを説明できてよかった。
- ・就職活動で学生時代に力をいれたこととして、自分の強みとして語れることがよかった。
- ・熊本について詳しく知ることができた。素晴らしい景観や地元のお祭りやその他の活動について、いままで知らなかったことを知ることによって知見を広めることができた。

- ・就職活動で学生時代に頑張ったことのひとつとして話すと、面接官の方に興味を持ってもらえて話が広がった。
- ・大学生活のなかで一生懸命取り組んだことが、自信になった。

3) コンテストに参加して大変だったこと何ですか？

- ・政策方向性を決める際、グループのみんなと話し合いひとつにまとめるのが大変だった。
- ・たくさんの情報を集めて整理するのが大変だった。情報過多になり、軸がぶれてしまうこともあった。
- ・発表まで半年近くあり、まだ時間があるとゆっくりしていたら、後々スケジュールが大変になった。

4) 調査をおこなった際、どのようなことに気を付けましたか。またどのような調査をおこないましたか。

- ・当時のことを思い出したくない被災者の方もいる。相手の気持ちに配慮しながら、地域の方と話しをすることが大切。貴重な時間を頂いているため、現地でしか得られない情報が聞けるように、文化、特徴、農産品、産業など地域の事を事前にしっかりと理解しておいたほうがいい。
- ・球磨村に現地調査に向かい、球磨村役場や避難所運営に携わった方にお話を伺ったり、球磨村役場の方々にオンラインでインタビュー調査を行った。予算の具体性を持たせるために、製品会社に電話でインタビュー調査を行った。

5) 住民にインタビューを考えていますが、どのようにコンタクトをとったらいいですか。

- ・被災した先輩から直接話を訊いた。加えて、球磨村のホームページの住民アンケートを熟読し参考にした。
- ・(事務局回答)事務局から県と市の担当者を通して、地域住民の方を紹介してもらうことができます。

6) 政策を考えるにあたり、参考にした事例などがあったら教えてください。

- ・県外、外国の事例に目を向け、その中から高知県黒潮町の事例を参考にした。ホームページの情報だけでわからなかったため、直接担当者にメールし、より詳しい情報を提供してもらった。

7) スライド等プレゼン資料を作る際、レイアウトについて参考にしたもの、意識したことはありますか。

- ・図書館で関係資料を探し、参考にした。
- ・大画面で見た時の文字の大きさ、色の割合、デザインを工夫して「見やすさ」にこだわった。

8) 本コンテストの経験がどう生きていますか、今に生きているものは何ですか。

- ・グループでの協調性が身に付いた。
- ・分かりやすいスライドを作るために色合いやアニメーションの使用など試行錯誤したことで力がついた。
- ・地域の現状・背景を見つけ、課題解決の方向性を決めて、具体的な取組みを考え、実行してみる、この一連の過程は勉強になった。
- ・政策の強みを人に自分の言葉で提案することの難しさを知ることができた。
- ・自分の住んでいる県の現状などを詳しく知るきっかけとなり、熊本をもっと好きになった。熊本には、まだあまり人に知られていない素敵な場所が沢山あることを実感し、他の地域(自分が調査した地域以外についても)も、調べてみたい、訪れてみたいと思うようになった。
- ・当日の発表は、沢山の人の前でプレゼンをするので、緊張もするがそういった機会はなかなかないのでとてもよい経験になった。
- ・人にわかりやすく伝えるためにはどうしたらいいか、ということを考えながらパワーポイントを作ったり、発表内容を考えたのでプレゼン力はついたと感じる。

9) 研究内容について是非、詳しい話を訊いてみたいです。

(事務局回答)説明会に参加してくれた3つのグループのプレゼン資料をコンソのホームページに掲載します。質問がある場合はコンソ事務局経由で回答します。

10) 今年参加を検討している後輩の皆さんへアドバイスをお願いします。

- ・発表会当日、自分たちの考えた政策について審査員から質問される。政策を考える過程で疑問に思ったことは、

その都度解決しておいたほうがいい。実際に実現可能かどうか、地域に住んでいる人の気持ちになって考えるのが重要だと思う。

- ・チームワークを意識して全員で役割を分担して政策を作っていく方がいいと思う。一人よがりや、一人の人に任せきりはよくない。
- ・アンケート調査や集計など時間がかかるようなものは早めに取りかかったほうがいい。夏休み中など時間がまとまってとれる時に終わらせておいたほうが後々楽。スケジュール管理が大切だと思う。
- ・スライドを作るのはとても時間がかかる。早めに作って、手直ししたり、発表の練習に時間をかけられたほうがいい。そうすることでよりよい発表ができると思う。
- ・各地域が出している PDF 資料「復興計画案」「復興まちづくり計画」などを読むと、地域への理解がより深まり、その地域の現状と今後目指している姿（目標）が分かる。
- ・自分達の政策と住民のニーズがマッチしているかきちんと確認する。

【その他：活動内容、事務局に確認したい事項など】

Q1 特に同じ団体に参加していない、異なる大学の友人と一緒に参加することは可能でしょうか。

（回答）コンソーシアムに加盟している県内の大学であれば、同じ大学の学生でなくても構いません。

Q2 課題を解決する期間はどれくらいを想定されていますか？

（回答）特に期間は決めていません。期間についても検討してみてください。

Q3 政策にお金がかかるとすれば、そのお金は税金から捻出することになりますか？ それともお金を集める方法をかんがえてもいいのでしょうか？

（回答）政策によってはお金がかかるものもあり、その場合は税金が使われることになると思います。しかし、お金を集める方法を考えるのもひとつのアイデアだと思います。

Q4 審査項目の「共感性」とは、具体的にどのようなことを指しますか。

（回答）ここでの「共感性」は「住民のニーズ」を意味します。住民が求めているものか、住民に受入られるものか、住民のためになっているか、ということと考えてください。